

0 理念

進捗状況報告

2007年度からの新たな文学研究科の発足、すなわち、それまでの10専攻の廃止に伴う3専攻14領域(博士課程後期課程は13領域)の発足に伴い、改めて目標の達成に向けた動きを着実に進捗させるべく努力を重ねる。
なお、再編の理念・目的を掲げると、次の通りである。すなわち、文学研究科では、人文科学の深い学識に裏付けされた人格の陶冶と、卓抜した水準における学術研究を通しての社会への貢献を理念とし、この理念のもとに文学研究科が目標とするのは、人文科学の領域において、現代世界の高度な学問の進展に応じた研究を推進し、その成果を学界、教育界、一般社会に還元することである。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

文学研究科の目的のもとに各専攻が当面の目標とすべきは以下のとおりである。

文化歴史学専攻

- 1) 2007年度の文学研究科再編を踏まえて、新制度を円滑かつ安定的に運営する。
- 2) 前期課程については、学部における学修の基礎に立ち、専門性をより特化させた研究を行い、質の高い修士論文の作成を指導する。
- 3) 後期課程については、2000年度に課程博士育成の促進を目指して制度改革を実施したが、この新制度の円滑な遂行を確実なものとし、優れた研究成果を携えた博士学位の取得者を安定的かつ継続的に輩出できるよう努力する。

総合心理学専攻

- 1) 2007年度の文学研究科再編を踏まえて、新制度を円滑かつ安定的に運営する。
- 2) 前期課程については、実証的研究手法の確実な修得に基づく高度な研究能力を涵養するとともに、斬新な視点に立って独創的な研究を立案、実施し、さらには高度専門職業人として自立していくための盤石な基礎能力の獲得を目指す。
- 3) 後期課程については、2000年度に課程博士育成の促進を目指して制度改革を実施したが、この新制度の円滑な遂行を確実なものとし、優れた研究成果を携えた博士学位の取得者を安定的かつ継続的に輩出できるよう努力する。
- 4) なお、前期課程においては、2002年度に昼夜開講の学校教育学コースを教育学専攻内に設置して、現職教員を中心とする社会人の再教育の要請にも応えうる体制を整えたが、これを安定的に運営する。

文学言語学専攻

- 1) 2007年度の文学研究科再編を踏まえて、新制度を円滑かつ安定的に運営する。
- 2) 前期課程については、学部における学修の基礎に立ち、より専門性を特化させた研究を行い、質の高い修士論文の作成を指導する。
- 3) 後期課程については、2000年度に課程博士育成の促進を目指して制度改革を実施したが、この新制度の円滑な遂行を確実なものとし、優れた研究成果を携えた博士学位の取得者を安定的かつ継続的に輩出できるよう努力する。

学内第三者評価

学部の再編を受けた形で2007年度に研究科の再編が行われ、2007年度の大学院設置基準の改正にもあつて専攻ごとに目標が定められており、ホームページで公表している点についても記述されることが望ましい。

文部科学省は、中央教育審議会が2005年度に出した答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」を受けて、2006年度に大学院教育振興施策要綱を出し、5年間程度の体系的・集中的な取組みを策定している。これは大きくは①大学院教育の実質化：教育の課程の組織的展開の強化②国際的な通用性、信頼性の向上の2本柱となっている。研究科の理念・目的・教育目標について検証するには、大学院設置基準、中教審答申「新時代の大学院教育」、大学院教育振興施策要綱を参照されたい。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
改組途上ということで自己評価がないが、高度専門職業人の養成、博士学位取得者の継続的輩出、外国人学生の積極的受け入れ(現在、学部・研究科で留学生数40人)などの目標を掲げているので、これらの個別の内容については、各項目において自己点検が求められる。